

大分合宿報告

NPO 法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局長、吉田寿子

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟の本年度の一大行事は、カザフスタン開催のアジア選手権への参加。この大会には、リオを目指すアジア地区の選手は必ず参加しなければならず、パラリンピックでは、アジア地区から多くの金メダリストが誕生していることを考えると、リオを目指す選手には、参加必須、リオ参加の可能性をも占う目安の大会。したがって、この大会では、リオを前に、最高のパフォーマンスが要求される試合と位置づけられる。

その大事な試合参加を一か月半後に控え、コーチ陣、選手との連携。選手のパフォーマンスの進捗状況を把握するため、大分の別府で合宿が開催された。

別府には、太陽の家がある。これは、障がい者の生き方を支援する日本でも唯一といってもよい素晴らしい方式を取っている会社だ。会社がオムロンやデンソー、ソニーといった多くの大手企業から受注した仕事を、障がいを持つ人々がこなし、隣接するマンションに居住している。会社全体が、バリアフリーであることは、いうまでもなく、トイレがすべて障がい者対応、出入りするドアの広さ、食堂のカウンターの低さ（車いす対応）、建築家でもある吉田進が驚いたのは、マンションの避難階段が全部スロープでできていること。ほかには、例を知らないと言っている。また、別府という土地柄もあり、障がい者用温泉が完備し、「健全者にはスポーツは趣味であってもよいが、障がい者にとって、スポーツは、必要不可欠のものである」という、創設者の考え方を取り入れて、スポーツ施設が充実し、大分の国際マラソン（車いす部門）の振興に尽力し、今、また、「城隆志」という選手をトップに、「パワーリフティング」にも力を注ぎ始めておられる。



こういった太陽の家の方針は、大分県の支援を得ておられるようで、合宿開催の際に、大分県障がい者体育協会、福祉保健部にご挨拶をする機会をいただいた。

また、太陽の家や、大分県福祉保健部では、東京パラリンピックを視野に海外選手の合宿の誘致の話もあり、大分県から、パワーリフティングが温泉のごとく沸騰しそうな勢いだ。

合宿では、石田連盟副理事長から、東京パラリンピックに向けての、サポート体制の説明と、それに対するパワーリフティングの選手の義務が詳しく説明された。

写真上；今後のパワーリフティングがどのように東京パラに向けて支援を受け、それに対して、パワーの義務は何か、説明する石田連盟副理事長



写真下；社会福祉法人太陽の家の事務局長はじめ、太陽の家の皆さんから歓迎を受ける



また、篠田連盟公認コーチは、過去のパワーリフティング連盟所属の全選手の記録や体重データを表にし、一人一人の選手の今後の課題が検討された。

パワーリフティングでは、肩の故障を訴える選手が多いが、肩をどのように直せばよいか、中ノ瀬連盟理事から説明があり、これを実践した選手からの報告があった。

実際のパフォーマンスを見ながら、吉田連盟理事長から、フォームのために、肩を故障する可能性の高まる上げ方をしている選手への矯正指導も行われた。



昨年より、連盟女性コーチ部門を設置し、様々な講習会や研修会に参加していただいている女性コーチ陣から、女性指導者の心得などの話をしていただいた。

驚いたことに、この合宿を地元のNHKが取材し、合宿当日の午後9時のNHKニュース大分版で流された。また、地元の大分合同新聞社からの取材もあり、大分における、パワーリフティングの振興に、城選手の並々ならぬ意欲と努力を目の当たりにさせていただいた。

この合宿に参加された選手の皆さんが成果を地元を持ち帰り、カザフスタンでは、記録の向上をスコアシートの上に刻んでいただきたい。



写真上；大分県福祉保健部草野部長と会談

写真中；大分障害福祉課訪問

写真下；フォーム説明



写真左；肩の故障が完治、記録を伸ばすだけで、果敢に挑戦、育藤選手

写真下；大分のパワーリフティングの顔、城選手（右）と城選手とともに未来を夢見る高校一年生（左）

